

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術I	美術1	38 光村	美I 701	光村図書出版

観 点		特色・具体例		該 当 ページ	
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度					
◎学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅰ」の目標・内容を踏まえ、Ａ表現・Ｂ鑑賞の題材がバランスよく、相互に関連を図りながら適切に配置されている。			教科書全般	
	日本や西洋の美術だけにとどまらず、幅広い地域や時代の作品が多角的に取り上げられており、生涯を通して美術文化について理解が深まるよう配慮されている。				
	各題材や巻末資料の中で、作品をつくるときの手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており、表現活動に生かすことができる。				
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量					
◎内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野別に整理され、バランスよく配置されている。内容がひと目でわかるようインデックスで色分けされており、学習指導を進めるうえで使いやすいよう工夫されている。			教科書全般
		各題材では学習のねらいを示した目標が記されており、学習指導を効果的に進めることができる。			教科書全般
		表現中心の題材には、「作家の手法」というページが設けられている。生徒が作品の主題を生み出す手がかりとできるよう、作家の発想や制作過程が詳しく示されている。			P.4-5,8-9,24-25,28-29,35,40-41,50-51,53,57,76
		表現中心の題材の随所に、作品を発想し制作する際に参考になる「表現のヒント」が掲載されている。			P.7,12,23,59
		襖絵や絵巻物、浮世絵が和紙風の用紙に印刷されており、本物に近い風合いで鑑賞することができる。			P.13～20
	巻 末 資 料	鑑賞中心の題材「比べて鑑賞する」では、作品を比較鑑賞することで共通点や相違点について対話したり、それぞれの作品のよさを感じ取ったりするなど、実感的に理解を深めることができる。			P.10-11,30-31,60-61,68-69
		巻末に「鉛筆で描く」「水彩絵の具で描く」「油絵の具で描く」といった技法についての資料が設けられており、制作の流れや用具の使い方を適宜参照しながら学習指導を進めることができる。			P.80～103
		色彩に関する巻末資料は計10ページ設けられ、(共通事項)の指導に生かすことができる。「混色のヒント」「色彩図鑑」は教科書から切り離すことができ、折りたたんで持ち運ぶことができる。			P.114～119,121～124
		観音開き3ページにわたる「美術史年表」では、日本及び諸外国の美術を歴史の流れや文化的背景とともに理解することができる。			P.108～110
	Q R コ ン テ ン ツ	「デザイン史年表」では社会状況の変化に対応したデザインの歴史が、「写真史年表」では撮影機材の進歩の歴史と各時代の写真作品が整理され、デザインや映像メディア表現の分野の歴史を学ぶことができる。			P.111～113
		各題材や巻末資料には適宜QRコードが掲載されており、関連するQRコンテンツとリンクしている。大きく掲載する鑑賞図版は、動画付きの音声ガイドとリンクしており、鑑賞を深めることができる。			教科書全般
		表現中心の題材および巻末資料は、鉛筆デッサンをはじめ水彩絵の具を用いた風景画や油絵の具を用いた静物画など、さまざまな技法動画とリンクしている。			P.7,12,80,82,84,86,89,90,93,96,98
	全国の生徒作品を掲載したQRコンテンツが、関連する題材とリンクしている。多様な生徒作品を鑑賞し、自分の表現に生かすことができる。			P.6,22,26,32,48,66,70,102	
③ 表 記 ・ 表 現 お よ び 使 用 上 の 便 宜					
◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ◎印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。	表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。写真・図版も鮮明で効果的である。			教科書全般
		教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されている。題材の随所には関連する巻末の資料ページを示したマークがあり、学習内容に関連した資料を活用しやすいよう工夫されている。			
	造 本	A4ワイド判(297×232mm)の紙面を生かし、2ページ大以上での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに、作品を細部まで鑑賞することができる。			
		製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。			
教 育 へ の 配 慮	U D ・ 特 別 支 援	カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており、誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。			
		活字は鮮明で読みやすい大きさ、フォントが使用されており、キャプションなどの比較的小さい文字にはUDフォントが使用されている。			
④ 総 合 所 見					
◎上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され、幅広い表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案、表現と鑑賞の各題材で活用できる多様な資料などが盛り込まれている。「美術の幅広い創造活動」を通して、「生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力」を育成するという「美術Ⅰ」の学習指導要領の目標に合致している。				教科書全般

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術Ⅱ	美術2	38 光村	美Ⅱ 701	光村図書出版

観 点		特色 ・ 具体例		該 当 ページ	
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度					
◎学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅱ」の目標・内容を踏まえ、A表現・B鑑賞の題材がバランスよく、相互に関連を図りながら適切に配置されている。			教科書全般	
	「美術Ⅰ」の学習を基礎にして、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとする「美術Ⅱ」の性格を踏まえて、学習内容が工夫されている。				
	日本や西洋の美術だけにとどまらず、幅広い地域や時代の作品が多角的に取り上げられており、生涯を通して美術文化について理解が深まるよう配慮されている。				
	各題材や巻末資料の中で、作品をつくるときの手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており、表現活動に生かすことができる。				
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量					
◎内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野別に整理され、バランスよく配置されている。内容がひと目でわかるようインデックスで色分けされており、学習指導を進めるうえで使いやすいよう工夫されている。			教科書全般
		各題材では学習のねらいを示した目標が記されており、学習指導を効果的に進めることができる。			教科書全般
		「作家の手法」というページでは、生徒が作品の主題を生み出す手がかりとできるよう、作家の発想や制作過程が詳しく示されている。			P.4～5,23,30～31,40～41,46～47,51
		掲載作品のアイデアスケッチが題材の随所に掲載されており、生徒が作品の主題を生み出す手がかりとすることができる。			教科書全般
	巻 末 資 料	鑑賞中心の題材「比べて鑑賞する」では、作品を比較鑑賞することで共通点や相違点について対話したり、それぞれの作品のよさを感じ取ったりするなど、実感的に理解を深めることができる。			P.6～7,42～43
		色彩に関する巻末資料「トーン別カラーガイド」は、配色を考えたり、デジタルで色をつくる際に活用することができる。また、教科書から切り離すことができ、折りたたんで持ち運ぶことができる。			P.69～72
		写真に関する資料「写真撮影の基本」「写真を編集する」では、撮影の技法だけでなく、データを適切に編集して保存する方法を掲載しており、端末を使った学習にも活用することができる。			P.56～59
		「漫画表現の技法」では、実際の漫画作品の制作過程を例に、漫画制作の流れを学ぶことができる。また、多様な表現技法を用いた作品が紹介されており、幅広い表現に挑戦する手がかりとすることができる。			P.60～61
	Q R コ ン テ ン ツ	「アニメーションの歴史」では、日本や世界のアニメーションの歴史が各時代のキーワードや図版とともに整理されており、アニメーションの誕生から21世紀のアニメーションに至るまでの流れを理解することができる。			P.62～63
		各題材や巻末資料には適宜QRコードが掲載されており、関連するQRコンテンツとリンクしている。両観音開きで掲載された「システィーナ礼拝堂」には、動画付きの音声ガイドが用意され、鑑賞を深めることができる。			教科書全般
		巻末資料「学習を支える資料一覧」のQRコンテンツでは、鉛筆デッサンをはじめ、水彩絵の具を用いた風景画や油絵の具を用いた静物画などさまざまな作品の制作手順が、動画で詳しく紹介されている。また、色の仕組みを理解するための色立体の動画や、美術史の用語の解説も見ることができ、知識を深めることができる。			P.66～67
		全国の生徒作品を掲載したQRコンテンツが、関連する題材とリンクしている。多様な生徒作品を鑑賞し、自分の表現に生かすことができる。			P.8,20,28,48
③ 表 記 ・ 表 現 お よ び 使 用 上 の 便 宜					
◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ◎印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。	表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。写真・図版も鮮明で効果的である。			教科書全般
		教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されている。題材の随所には関連する巻末の資料ページを示したマークがあり、学習内容に関連した資料を活用しやすいよう工夫されている。			
	造 本	A4 ワイド判（297 × 232mm）の紙面を生かし、2 ページ大以上での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに、作品を細部まで鑑賞することができる。			
		製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。			
教育への配慮	UD・特別支援	カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており、誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。			
		活字は鮮明で読みやすい大きさ、フォントが使用されており、キャプションなどの比較的小さい文字にはUDフォントが使用されている。			
④ 総 合 所 見					
◎上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され、表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案、表現と鑑賞の各題材で活用できる資料などが盛り込まれている。「美術の創造的な諸活動」を通して、「生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力」を育成するという「美術Ⅱ」の学習指導要領の目標に合致している。				教科書全般

令和5年度版教科書

検討の観点と内容の特色 高等学校用 美術3

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術Ⅲ	美術3	38 光村	美Ⅲ 303	光村図書出版

観 点		特色・具体例		該当ページ
① 内容の選択・程度				
◎学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅲ」の目標・内容を踏まえ、A表現・B鑑賞の題材がバランスよく、相互に関連を図りながら適切に配置されている。			教科書全般
	「美術Ⅰ」および「美術Ⅱ」の学習を基礎にして、美術の諸能力を伸ばすことをねらいとする「美術Ⅲ」の性格を踏まえ、より表現や鑑賞の能力を深められるよう学習内容の段階化が図られている。			
	日本や西洋の美術だけにとどまらず、幅広い地域や時代の作品が取り上げられている。また現代社会や美術に関わる仕事をテーマにしたページを設け、社会や文化への視野を広げることができるよう工夫されている。			
	各題材の中で、作品をつくるときの手がかりや制作に役立つ資料が示されており、表現に生かすことができる。			
② 組織・配列・分量				
◎内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野別に整理され、バランスよく配置されている。内容がひと目でわかるようインデックスで色分けがされており、学習指導を進めるうえで使いやすいよう工夫されている。	教科書全般	
		各題材では学習のねらいを示した目標が記されており、学習指導を効果的に進めることができる。	教科書全般	
		A表現では、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現それぞれにおいて取り上げる活動のバランスと分量が配慮されている。B鑑賞では「作家の生涯と作品」「見る・知る・学ぶ」「作品鑑賞室」などの題材が設けられ、多角的な鑑賞体験への提案がなされている。	P.6～37	
		表現の題材では、作品を発想し制作する際に参考になる「制作ノート」が示されている。	表現中心の題材全般	
	巻末資料	「作品鑑賞室」では、鑑賞を深めるための生徒への問いかけをQマークをつけて記し、意欲的に学習できるようになっている。	P.11,19	
		「美術を学んで広がる未来」では、美術に関わる職業が紹介され、その職業に携わる人のインタビューが掲載されている。美術への興味・関心を喚起させ、職業について意識させる内容である。	P.40～45	
		卒業を控えた生徒の参考となるように、巻末に「ポートフォリオをつくる」、キャリア教育を意図した「美術を学んで広がる未来」といった資料が設けられている。	P.38～45	
③ 表記・表現および使用上の便宜				
◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ◎印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。	表記・表現	用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。写真・図版も鮮明で効果的である。 教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されている。	教科書全般	
	造本	A4ワイド判（297×232mm）の紙面を生かし、2ページ大以上での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに、作品を細部まで鑑賞することができる。 製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。		
	UD・特別支援教育への配慮	カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており、誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。 活字は鮮明で読みやすい大きさ、フォントが使用されている。		
④ 総合所見				
◎上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され、表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案、卒業を控えた生徒の参考になる資料などが盛り込まれている。「創造的な諸活動」を通して、「生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める」という「美術Ⅲ」の学習指導要領の目標に合致している。			教科書全般